



身近な素材！ 種類が豊富！

“紙でアート” やってみよう！

夏といえば工作のシーズン。まとまった時間にじっくり取り組める夏休み、いろいろな作品がありますが、一番身近にある材料は、何と言っても紙。簡単に手に入る。簡単に加工ができる。工作に使える紙は、ボール紙や色紙ばかりではありません。紙の種類がとても豊富。そんな柔軟な素材と自由な発想で、幼児からも楽しめる“紙でアート”、やってみましょう！

生活の中には、たくさんの紙

生活の中の紙。あらためて見回してみると…新聞紙、ティッシュペーパー、カレンダー、本や雑誌、段ボール箱、牛乳パック、紙コップ…などなど。

日本では昔から、扇子や扇子、ちょうちん、傘、着物まで、紙は消耗品としてだけでなく、生活用品としても活躍してきました。

子どもにとっても、絵や字を書くためだけでなく、新聞紙を丸めてチャンバラをしたり、紙風船で遊んだり、紙でぼうしを鳴らしたり、凧を作ったりと、遊びの材

料としても欠かせないものでした。作って遊ぶ、ゲームやごっこ遊びの道具のために作る、そこに子どもの成長を豊かにする試行錯誤や工夫、そして友だちとのコミュニケーションが広がりました。

紙の魅力を再発見！ ～ペーパーマーケット～

今も昔も子どもたちは紙工作が大好きです。こどもの城でも、紙を使った造形活動は定番。

造形スタジオでは現在、紙の魅力を再発見するプログラム「ペーパーマーケット」が行われています。

それぞれ紙の特長を生かしたプログラムは、街のお店にあるものを題材にすることも子どもたちの創作意欲をかき立てます。目の前に用意された材料から、スタッフも考えつかなかった傑作ができあがることも。ではプログラムの一部をご紹介します。

※プログラムの実施日程はホームページをご覧ください。
※春休みを実施しました。

紙の造船所～ワックスペーパーシップ～

ろうなどを染み込ませた水をはじくワックスペーパー（ろう引き紙）は、食品などの包装用やキッチン用品として簡単に手に入ります。

ワックスペーパーの両端をアルミの針金（柔らかく簡単に曲げられる）で束ね、船の形にします。色紙で旗や飾りをつければ、水に浮べて遊べる船の完成。★幼児からできます。

青山帽子店～クラフトハット～

クラフト紙は、木や草などから取り出した繊維（パルプ）を漂白しないため（未漂白パルプ）、茶褐色で強度があります。そんなクラフト紙の紙袋を使って、帽子を作ります。★幼児からできます。

ガーデンショップ～なみ段プランツ～

段ボールならではの硬さと、曲げやすい特性を生かしたプログラム。

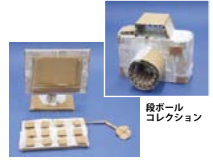
葉っぱの形に切った波段ボールにアルミの針金をおしてつなげ、植物を作ります。★小学3年生以上向け。
※春休みを実施しました。

電気屋さん～段ボールコレクション～

板状の段ボールとやわらかい波段ボールを組み合わせて、ボンドで接着。薄い紙で補強をして、携帯電話やカメラ、パソコンなどの電化製品を作ります。★小学3年生以上向け。

ベタベタハリコ のピン置さん

竹などで組んだ骨組みや粘土で作った型に、紙をのりで貼り付けて成形する「張り子」は、郷土玩具の犬や虎など干支の人形でも知られる昔ながらの技法。ここでは、ビニールをかぶせたピンに、和紙（障子紙など）や薄い色紙を張り重ね、乾燥後、ピンとビニールを外して、張り子のピンをつくりまわす。★小学3年生以上向け。



知っているようで、 知らなかった紙

材質に注目してみても紙はさまざま。牛乳パックや紙コップなど、形状を生かした造形活動がイメージできるものもあります。

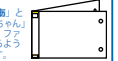
身近にあつて、こんなにも魅力的な造形素材が紙です。

たくさんの種類がある。簡単に手に入る。加工が容易（幼児から高学年まで“アート”できる）。

すぐにできて遊べるものから、大作まで。“紙でアート”、やってみましょう。

切り抜く保存版「しろべでいぬ」

「紙でアート」を考えるヒント ※「しろべでいぬ」と「はかせとごちゃん」は切り抜いても、アート・ミュージック・サイエンスなど（こどもの城）の専門スタッフの知恵がつまった百科事典になっています。



こどもの城

しろべでいぬ no.5

「紙でアート」を考えるヒント アート

造形プログラムはたくさんありますが、時間や設定のちよよいものが見つからない、そんなことはありませんか？
そこはひとつ、その場にあったオリジナルのプログラムを考えてみてはいかがでしょうか？

造形活動は、子どもたちの「作りたい」という気持ちから、制作する中で子どもたち自身が、個々の世界を広げ表現することの楽しさを体験します。完成までの工程をすべて決めずに、子どもの発想を見守るようなプログラムを。

何に興味があるか

対象とする子どもたちが、何に興味があるか、どんな遊びをしているか、何に喜ぶか、などから発想してみる。
虫捕りや魚つり、サッカー、アイスクリーム、携帯電話、パソコン…

紙の特性を生かす

それぞれの紙の特性を利用する。
丈夫で硬い、色がきれい、薄くて透ける…

既存のものから発想する

お店にあるもの、動物、乗り物などの形、色、風合いなどにあった紙を探る。その逆に紙の素材感から品物などを連想する。

手で触れる

自分の手で素材に触れ、折ったり、曲げたり、丸めたり、ちぎったり、揉んだりするうちに、新たな素材の生かし方を思いつくことも。

視点を変えてみる

身近にある紙製品に着目してみる。紙袋、紙皿、紙コップ、封筒…ふだん目にしていないものを視点を変えて見てみると、新たな発見がある。

先人の知恵から学ぶ

昔はどのように使われていたかを本などで調べたり、民芸品や工芸品で使われている技法を使う。
張り子、和風、行燈、扇子…

いくつかキーワードや要素、技法が出てきたら、それらを組み合わせてみましょう。例えば「紙袋を帽子にしてみたら…」など簡単な工程を考えれば、あとは子どもたちが自由な発想で飾り付けてしまうもの。見本と同じものを作るのではなく、自分で考え、それに向かって工夫することを大切に設定します。

子どもたちと一緒に、素材の魅力を発見してみよう！



ワックスペーパーシップ

監修：造形課スタッフ 中林祐子